

「大垣輪中の恩人」の治水功績者

金森吉次郎像の 再建資料を発見

本人と見られる写真も

見つけた治水功績者金森吉次郎の銅像再建の資料や写真 大垣市役所



「大垣輪中の恩人」者、1896(明治29)と評される治水功績者 年夏、大垣城天守閣の金森吉次郎(1864 石垣まで浸水した豪雨 1930年)の銅像 災害の際、輪中堤の一部を切り割り、市街地を復元した際の資料や写真が、大垣市内の水防倉庫から見つかった。銅像復元からは60年が経過している。

金森吉次郎は明治時代に活躍した治水功績者に政府や皇室に陳情した金原明善らとともに、天竜川の治水で名をなした。戦後、銅像を再建する機運が高まり、1954(昭和29)年12月に大垣市郭町の大垣公園内に建立された。

見つけた資料は、

当時の大垣輪中水防組合がまとめた「銅像復元記録」と銅像の写真。背広姿の男性の写真。同事務組合の職員が同市木森の水防倉庫を点検していた際に見つけた。発見された状況などから背広姿の男性は

を重ね、現在の河川法や森林法を整備するきっかけをつくった。吉次郎はまた、薩摩義士の事績を掘り起こし、顕彰活動に力を注いだ。

多大な功績から存命中に銅像が建立されたが、太平洋戦争中に軍部に供出されてしまった。戦後、銅像を再建する機運が高まり、1954(昭和29)年12月に大垣市郭町の大垣公園内に建立された。

晩年の吉次郎と推測されている。見つけた資料には除幕式典などが詳細に

記録されており、当時、長、武藤嘉門県知事らの三輪勝治市長、水防を迎えて盛大に除幕を組合の高畑興之助委員、吉次郎の遺徳を長らが建設省河川局 称えている。